

国鉄労働運動の主流派に

日刊
動労千葉

1988.10.6
No.2902

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

動労総連合第三回定期大会開催 10/3南房総研修センター



動労総連合は、十月三日十三時より君津市・南房総研修センターにおいて、第三回定期大会を開催し、向こう一年間の闘う方針を決定した。

大会には、高崎、水戸、遠くは西日本の仲間が北陸、広島から千葉の地へとかけつけ、熱気あふれる中かちとられた。

大会は、辻川副委員長の開会の言葉、次に赤羽根代議員（千葉）を議長に選出し、開始された。

水野動労総連合中央執行委員長の戦闘的挨拶をうけ、布施書記長による経過報告と代議員から各地での闘いの報告がなされたあと、方針が提案され、質疑へと移っていった。発言にたつ代議員のどの顔にも、この間闘ってきた地方での闘いと動労総連合の路線の正しさ、勝利への確信に満ちあふれている。まさに、国鉄労働運動を牽引する総連合にふわしい大会となった。

水野正美中央執行委員長



あいさつ

動労総連合は、この一年間、血みどろの闘いを展開してきた。ふりかえってみますと、その前半は強制配転や差別・選別攻撃に対し

て生産点における職場抵抗闘争を闘いぬき、そして後半は、いよいよ組織をあげたストライキに反撃の端緒を切り拓いた。しかし、この闘いは長期にわたる闘いであり、ちよつとしたことで一喜一憂してはならない。ハラをすえてこれに臨まなければならぬ。

なぜなら、戦後の盟主として君臨してきたアメリカ帝国主義を軸とした世界体制が音をたてて崩れ、その下で世界最弱の環日帝は今日、天皇キヤンペーンの大合唱を行い、マスコミは完全に「

ペンを折られ」そのお先棒をかついでいる。この異常な事態をはじめとして反動と暗黒の攻撃を敵の死活をかけてしかけてきているからだ。そこには、反マル生闘争の時七〇年代とは比較にならないものがある。そして、その攻撃をすべて労働者・人民の犠牲の上に強制しようとしている。

今日、その攻撃の縮図がJRである。JRは労働者の魂さえも売ることを強要し、奴隷になれと言っているのである。しかし、われわれはこのことから逃げることはできない。

われわれは、動労総連合を結成する時に、「奴隷の道に甘んずるより、起って反撃を」と決意したのである。労働者としての生きる道をそこにみいだそうとしたのだ。そして、そう思っている労働者は全国に沢山いる。われわれはそうした労働者の中心にならなくてはならない。そして、ひとつひとつの闘いを大切にして着実に前進しよう！